令和２年度　東国文化自由研究レポート

研究テーマ

群馬の古墳から見えてくること
～古墳の場所や埴輪、そして、大陸とのつながり～

提出日　令和２年８月２４日

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

１年　４組　28番

氏名　峯岸　大知

1　研究の動機

今回取り上げる３つの古墳は、天神山古墳、綿貫観音山古墳、そして八幡山古墳です。天神山古墳と、八幡山古墳は、それぞれの形で東日本一の大きさをほこります。そして観音山古墳は、たくさんの副葬品が出土しています。このことから、上記３つの古墳は、埋葬されている人の権力がとても強かったことがうかがえます。

この古墳を調べることにより、東国から出土した埴輪の種類からわかることは？　どのような場所に多く古墳が作られたのか？　そして大和王権、大陸とのつながりは、どうだったのか？　この３つの観点から、東国ならではの特徴を探っていきます。

2　調査方法

① 実際に古墳に行く。
② 埴輪や副葬品が置いてある博物館に行く。
③ 本で調べる。
④ インターネットで調べる。

3　調査結果

(1)　群馬の埴輪について

❶　天神山古墳

太田にある国指定史跡です。前方後円墳で、墳丘長は、210m と東日本一です。
資料Ⅰが天神山古墳の想定図です。天神山古墳からは、家形埴輪や水鳥形埴輪（頭部）（資料Ⅱ）が見つかりました。

資料Ⅰ

(太田市ホームページから引用)

資料Ⅱ

(https://kofun.info/より引用)

❷ 綿貫観音山古墳

高崎市にある国指定史跡です。墳丘長 97m で、6 世紀ごろにつくられました。

出土品は、三人童女（資料Ⅰ）やたくさんの馬型の埴輪（資料Ⅱ）や振り分髪男子（資料Ⅲ）やあぐらをかいて座している男子（資料Ⅳ）や、靫（ゆぎ）を背負う男子三体など珍しい埴輪が見つかっています。資料の写真は僕が群馬県立歴史博物館で撮影したものです。

資料Ⅰ　三人童女

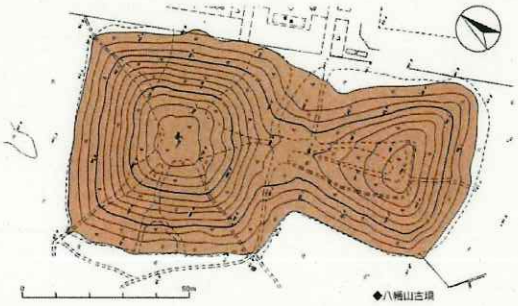
資料Ⅱ　馬型の埴輪

資料Ⅲ　振り分け髪の男子

資料Ⅳ　あぐらをかいて座している男子

❸ 八幡山古墳

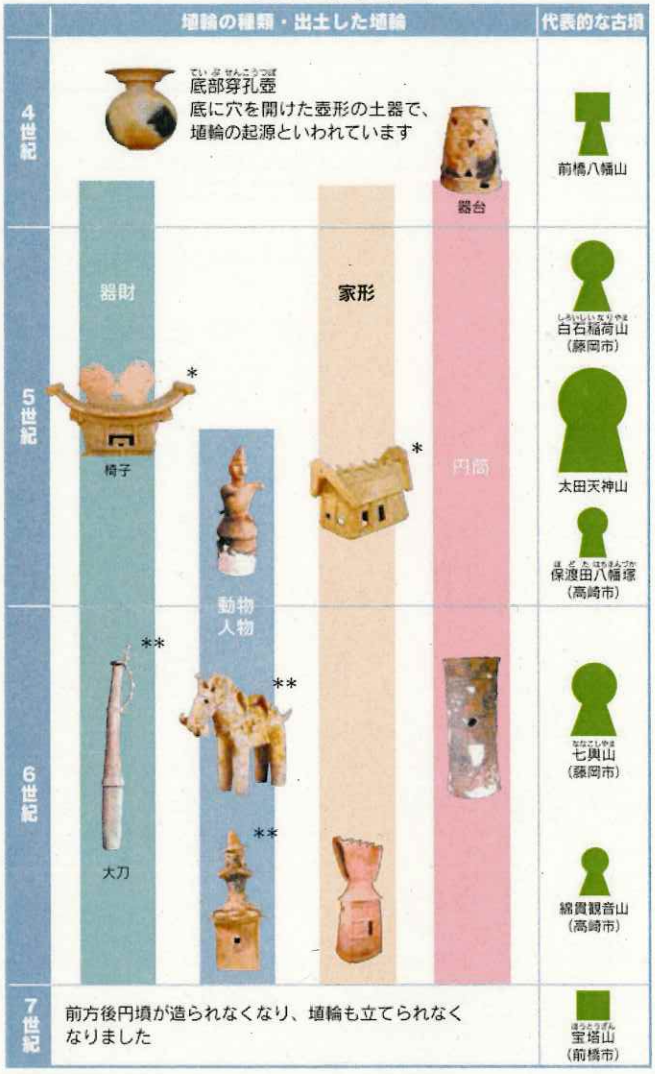
八幡山古墳（前橋市朝倉町）は、数少ない前方後方墳です。そして、そのなかでは、130mと東日本一の大きさを誇ります。毛野の地に出現した初期古墳です。古墳の築造は4世紀の半ばから後半にかけてです。出土品は、ありません。

資料Ⅰ　八幡山古墳	資料Ⅱ　八幡山古墳の上からの様子
	
（サイト「遺跡見てある記」より引用）	(https://transience.blog.ss-blog.jp/2016-03-09)

❹ 群馬の古墳のまとめ

- 人形埴輪や馬型の埴輪が多く出土している。
- 三人童女や振り分け髪男子の埴輪のように埋葬された人の副葬品と同じものをまとっている、埴輪が多い。

群馬の埴輪年表



（群馬県HPから引用）

(2)　群馬と畿内大和王権や大陸（中国）とのつながり

天神山古墳

天神山古墳は、畿内王墓特有の長持形石棺が使われ、群馬県では、伊勢崎市のお富士山古墳と天神山古墳のみです。

左図はお富士山古墳の長持形石棺です。(伊勢崎市 HP から引用)

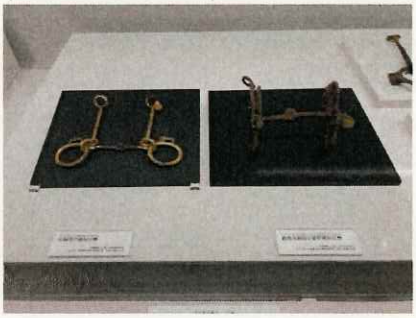
【特徴】長持形石棺が使われている

大和王権と天神山古墳とのつながりが強かったということがわかる。

綿貫観音山古墳

観音山古墳からは馬具や獣帯鏡、銅水瓶が副葬品として見つかっています。獣帯鏡は、百済の３つ技術や材料、もの馬具や獣帯鏡は全て大陸から伝わりました。

写真は群馬県立歴史博物館で撮影したもの。

		
馬具	銅水瓶	馬具

観音山古墳は、大陸と強くつながっていることがわかる。

畿内大和王権や中国とのつながりまとめ

群馬は、畿内大和王権や大陸と強いつながりをもっていた。その証拠に百済と同じ獣帯鏡や畿内大和王権の長持形石棺、そして馬具などが出土している。

(2)　どのような場所に古墳が作られたのか？

天神山古墳	綿貫観音山古墳	八幡山古墳
天神山古墳の場所の特徴	観音山古墳の場所の特徴	八幡山古墳の場所の特徴
渡良瀬川につながる川が流れている。	井野川が近くにながれている。	広瀬川が流れている。

↓

どの古墳にも共通して川が近くにあることに気が付いた

どうして川の近くに古墳が多いのか？

考えらえられること

- 稲作の関係
- 大和王権やほかの地方から輸入しやすくするため

↓

どんな川で輸入、輸出が行われていたのか

➡ 利根川が一番可能性が高い。なぜなら利根川は、大和王権とかかわりがある埼玉県の稲荷山古墳の近くを通り、古墳が固まっている地域を通るからです。

どのような場所に古墳が作られたのか？まとめ

どの古墳にも共通して近くに川があった。
それは、稲作や大和王権や地方から輸入、輸出しやすくするためです。
特に利根川が濃厚

4　考察

僕は結果から　３つのことを考察します。

１つは、群馬の埴輪の特徴です。
僕は、初めのころは、群馬だから馬の埴輪がたくさんあると思っていました。実際に研究してみて、観音山古墳は、大陸とのつながりがとても強かったので大陸から馬が群馬に来たためたくさんの馬の埴輪が出土していることが分かりました。あと、馬は昔、価値のある動物とされていたため馬の埴輪を作ることが自分の権力のアピールでもあったといえます。この

ことから、群馬には、権力の強い人が住んでいたことも分かります。
改めて群馬は、昔から馬と関わりがあったのだと分かりました。
そして、埴輪についてもう１つ観音山古墳からは、三人童女や振り分け髪男子といった埴輪が見つかっておりその埴輪達は、埋葬された人の副葬品と同じものをまとって細かくにつくられています。僕はなぜこんなに細かく副葬品を埴輪にまとわせたのかとても僕の中で疑問に思いました。

２つ目は、群馬は大陸や畿内大和王権と強くつながっており観音山古墳からは馬具や獣帯鏡、銅水瓶が、天神山古墳は、畿内王墓特有の長持形石棺が使われていました。このことから、群馬は、大和王権や大陸と対等に接するぐらいの権力を持っていたクニだったことが分かります。そう思うと、むかしは、群馬も大和王権の文化大陸の技術を取り入れ頑張って群馬を発展させようとしていたことが出土品や埴輪から伝わってきます。

３つ目は、古墳は、川の近くにつくられていたということです。世界の文明であるエジプト文明やメソポタミア文明が川で発展したように群馬では、調べた３つの古墳全て川の近くでした。そしてそれは、稲作や大和王権や地方から輸入、輸出が関係していることも分かりました。このことは、畿内でもそうなのでしょうか？大仙古墳で考えてみました。
やはり大仙古墳も近くに大和川があり、そして、海の近くでもあります。
こうしてみると、また新しい畿内の古墳は、海の近くにあるのかという疑問もわいてきました。このことから、どこでも共通して、いえることは、文明も文化も発展には川が必要ということです。

5　研究をしてみた感想

僕は、「天神山古墳、観音山古墳、八幡山古墳を比べて見えてくる東国の古墳や埴輪の特徴」について調べました。この研究をしてみて、県立博物館や天神山古墳、綿貫観音山古墳などに実際に行き、実際には、形、大きさはどうか調査できました。この研究をして群馬

の大和王権や大陸とのつながり、群馬には、どの形の埴輪が多いのかがわかりました。この研究で群馬を知るいい機会になったと思います。

そして、自分なりの研究結果が出せて、良かったです。次回は研究をして気になった畿内の古墳は、海の近くにあるのかという疑問について自分なりに研究したいです。

6　参考文献

- 群馬の古墳物語＜上＞　著者　右島和夫　出版　上毛新聞
- 群馬の古墳物語＜下＞　著者　右島和夫　出版　上毛新聞
- 伊勢崎 HP（https://www.city.isesaki.lg.jp）
- 東国文化副読本 P37、P49
- 太田市 HP（https://www.city.ota.gunma.jp/）
- 古墳マップ（https://kofun.info/）
- サイト「遺跡見てある記」（http://homepage.obunko.com/）
- 群馬県 HP（https://www.pref.gunma.jp/）